



問六

「傍線部⑤の直前の「もう死んだのかもしれない。ちゃんと」とを、普通の語順に直すと、「もう、ちゃんと死んだのかかもしれない」となります。「ちゃんと死ぬ」ことのできなかつたふーちゃんは、「ゆうれい」としてこの世に残っています。のんきなふーちゃんも、自分をこの世に引き留める重たい「心残り」のことを「ちゃんと」として、「ちゃんと」成仏したいと思っているのでしょう。

問七

「ラスト」は残りの、最後の、「ラン」は走ること、の意味。ここでは、七十四歳のイコちゃんにとつての、最後のバイクの旅のことです。イコちゃんにとつてこの「ラストラン」にはどんな意味があるのか、傍線部を含む形式段落、「ラストラン」についてのイコちゃんの独白に注目して考えます。「この私にもいろいろ恋はあつたけど、仕事に夢中になつていて、いままで結婚にも、子どもにも恵まれなかつた。」これはやつぱり「心残り」とあります。また、傍線部⑤の7～9行前に、「十二歳の時の私は違う。」よりによつて、自分の母親が死ぬなんて……と理不尽に思えた。それをこの歳になるまで、引きずつて消えることはなかつた」と書かれていますが、これもイコちゃんにとつては心残りにあたります。これら的心残りを晴らすために、イコちゃんはふーちゃんという「これ以上望めない素敵な相手」を連れて、人生最後（＝ラスト）かもしれないバイクの旅に出るのです。また、問題とは直接関係ありませんが、このバイクの旅はもしかしたら、ふーちゃんにとつても「心残りを晴らす旅」になるのかも知れませんね。

問八 前半の場面でイコちゃんはふーちゃんに對して、「私にしてみれば、ここで、『実は、残してきた娘たちが心残りで、成仏できなかつたのよ』とドラマチックに打ち明けてもらいたかつたんだか訳もなく私は不満になつていた」という感情を抱いています。この部分から、□a□b□c□dに当てはまる言葉を判断することが可能です。

問九 □dについては、波線部の直前の部分の、「また、来るわ。会えるといいね」と言つたイコちゃんに對するふーちゃんの反応、「やだ、行っちゃ、やだ」と別れをいやがり、泣き出しそうになるようすをまとめます。

四 出典は、内山節「日本人はなぜキッネにだまされなくなつたのか」。

問一 傍線部①と同じ段落に、「まず第一に、オオサキは実在する動物なのかどうかあやしい」という筆者の考えが示されています。ここから、「オオサキを捕らえた人」の発言を疑つてゐる、という意図が読み取れます。

問二 傍線部②をふくむ一文を読み返すと、「後にはミを食べたあとのかラだけが残つてゐる」とあります。ここでいう「ミ」「カラ」とはそれぞれ何か、本文の続きをよく読みましょう。すると、傍線部③をふくむ段落に、「ミとは魂と書いてもよいし、靈と書いてもよい。つまり、生命の根本的なものをいただく、ということである」と書かれていますね。その後に、「カラ」については「ミを入れてゐる容器がカラである。食べ物としてみえてゐるものはカラで……」と説明されています。したがつて、「カラだけが残つてゐる」とは、「生命の根本的なものがなくなり、目に見えるものだけが残つてゐる状態」であるといえます。この内容が伝わるようになつとめましょう。

問三 傍線部③の後に、「食事とはミをいただくことで、いわば生き物の生命をいただくから、『食事とは他の生命を攝取することなのである。だから、自分のために犠牲になる生命への感謝が必要になる』とあります。さらに、食事のときの祈りの対象として、「神ではなく、靈的世界になる。あるいは絶対神ではなく、靈的世界を形成する神々である」と書かれています。「犠牲になる生命への感謝」「靈的世界やそれを形成する神々への感謝」が読み取れるよう、解答をまとめるとよいでしょう。

問四 オオサキの「秤に乗る性格」について具体的に書かれた、傍線部を含む形式段落に注目して、オオサキがどのような動きをするのか、確認します。④の直前に、「荷のほうに乗るようになつた家では、少し軽い荷でよくなるから余分に收入があり、逆になつた家では、少し余分に荷を積まなければならない」とあります。

問五 傍線部の「それ」は「オオサキ払いの儀式」と「真剣」に注目すると、最終段落に、「ただしオオサキ祓いが真剣なものだったという事実は、私たちの世界は目にはみえない生命や靈的なものの介入をたえず受けながら展開している、という伝統的な人々の考え方を垣間見させることあるのが見つかります。

問六 傍線部⑥の直前に、「こういうときに、犯人としてオオサキが登場する」とあります。指示語「こういうとき」の指す内容は、直前の段落の「同じことをして少しずつ少しずつ差が開いていくうちにそのものも雰囲気が悪くなる」の部分です。村でクラスメンバーの間に差が開いていくようなどき、それをオオサキという目にはみえない靈的な存在のせいにすることで、不平等に対する不満を村のメンバーに向けないようにして、村の雰囲気が悪くなるのを避けたのです。

問七 「伝統」という言葉をキーワードにすると、問三で確認した形式段落の次に、「近代化とともに食事で摂るもののが生命から栄養に変わり、伝統的な食事の作法も崩壊した」とあるのが見つかります。この部分から、伝統的な考え方の失われた原因是「近代化」にあると判断できます。